

平成19年10月1日
(2007)
第77号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855
保谷公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211
住吉公民館 住吉町6-1-25 TEL 421-1125
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011



全国大会へ向け猛特訓中の木場さん

くるみ学級スタッフ ボウリングで 全国大会へ

今月、全国障害者スポーツ大会が秋田で開催されます。ボウリング競技の東京都代表の8人の中の1人に木場寛子さん(新町在住)が選ばれました。

木場さんは、養護学校を卒業後、「くるみ学級」に8年間在籍しました。その優しい人柄をかわれて現在くるみ学級のスタッフとして活動しています。

くるみ学級は保谷公民館で土日に開かれる知的に障害のある人たちの学級です。

木場さんのボウリング経験は、わずかに8か月。しかし、毎週2日(火曜と金曜)2時間の練習では一心不乱に投げ続けてきました。火曜はボウリング場の支配人に直々に指導を受けました。金曜は、くるみ学級の担当者の中條職員にコーチを受け、次第に腕を上げてきました。

ふだんは、ビデオや音楽が好きで、KAT-TUNの赤西のファンです。

平日は市内の作業所で、袋折や口板入れの仕事をしています。練習の日は、仕事を終えて駆けつけます。

もともとスポーツ好きな木場さん。4年前に腰を痛め、それを改善するため水中歩行を始めました。このことがきっかけとなり水泳競技(平泳ぎ)で東京都の大会で優勝という輝かしい経歴の持ち主です。

水泳はそれで一区切り、とボウリングに転向したのです。

現在のハイスコアは168。200を当面の目標に、虹色に光るマイボールを転がします。ストライクを出すと、手のひらをいつぱいに広げて笑顔を見せます。

「どのピンが苦手ですか」との質問に「10ピンと7ピン。すかさず「彼女は純粋で真つすべだから、何度も斜めに投げるように教えてもらって真ん中に立って投げてしまおう」と中條コーチ。球筋もストレート。

10ピンが残った時はレーンの一番右に立って、まっすぐなボールでターゲットになりながらも倒します。7ピンもレーンの一番左に立って投げます。練習ではストライクの数もかなり多く、ボールに勢いがあるため、ス

プリント(ピンが左右に分かれて残る)がほとんどありません。これなら苦手なピン以外なら好スコアが期待できます。

今月初旬には結団式。10月13日には開会式です。本人は「優勝したいです」ときつぱり。木場さんの結果についてはまた公民館だよりで報告します。

第45回 東京都公民館研究大会 ◆ 新しい時代の公民館 ◆

▼と き=平成19年12月16日(日) 9時30分~16時30分
▼と ころ=昭島市公民館・昭島市保健福祉センター
▼課題別集会=
①誰でもできる公運審~公民館運営審議会の役割を探る~
②思わず参加したくなる講座の作り方~企画・PR・実施~
③ゆらぐ社会教育と公民館
④まちづくり★ひとづくり
⑤社会的参加に制限の多い人たちへの公民館事業の取り組み
⑥市民協働で新しい連携のかたちを求めて

▼参加費=1,000円(記録集CD-ROM代含む)
▼申 込=10月31日(水)までに公民館にお申込みください。
▼その他=駐車場有
▼主 催=東京都公民館連絡協議会
※詳しい内容は各公民館にて配布中の大会開催要項をご覧ください。

サークル訪問 ~中国胡弓楽坊~

「夜来香」ラブソディ奏でる
二胡の楽しみ

中国の民族楽器、胡弓(※二胡)を弾いているサークルです。田無公民館で第2・第4土曜の19時から活動しています。

「手首の移動なしで、G調の音階を弾いてみましょう」講師がお休みのこの日は、代表の大内さんがリードして練習が始まりました。18人の会員がゆつくりと、2オクターブ分を合わせます。

「習い始めは、鶏の首をしめたようになすこい音だったんですよ」家で練習していても、近所の人に騒がしいぞ、と怒鳴られたり「と西浜さんも苦笑します。中には「チャイナドレスを着たくて始めた」という人も。多くの会員が2~4年のキャリアを重ねてきた今、二胡特有の哀愁を帯びた音が視聴覚室に響きま

す。4か月の依田さんも真剣な表情で弓を弾きます。「私は馬頭琴もやりたいんです。いずれは娘の二胡と合わせたいんです」そう話すのは母娘で参加している新保さんです。

今からちょうど4年前、「中国女子十二楽坊」が賑わっていた頃、田無公民館の主催講座「胡弓を弾いてみよう」をきっかけにサークルができました。その後には田無公民館まつりや市民文

主催講座必読 今、公民館では

(公民館運営審議会委員)古賀

8月11日(土)に芝久保公民館で行われた、戦争体験を語る「西東京でも空襲がありました」に参加しました。

ヒロシマ、ナガサキ、東京大空襲については、多くの人が何らかの知識を持っていますが、西東京市内でも空襲があったことを、どれだけの市民が知っているのでしょうか。

講師の濱野敏郎さんは、62年前の4月12日に、田無駅前が1トン爆弾の爆撃を受けたときのことを中心に、戦時中のようすを詳しく語ってくださいました。空襲のたびに、青梅街道を西の方へ逃げる人々のこと、田無

化祭にも参加しています。また、谷戸町のデイケアセンター、アスタのセンターコートにも招かれて演奏しています。今年からは独自に「春節コンサート」と銘打って、公民館で一人ずつ独奏を披露する催しも始めました。「演奏会の後はたいがい宴会です。そこでも、先生が胡弓を弾き始め、みんなもそれに合わせて合奏になるんですよ。そんなところもこのサークルの魅力ですね」と大川さん。「みなさん二胡を始めた時期が違っているので、演奏会など何の合奏曲を弾こうかなかなか決められないのが一番の悩みです」と語る下坂さん。レパートリーは「草原情歌」「夜来香」など中国歌曲のほか、井上陽水の「少年時代」などのポップス系の曲も。

「気持ちはずすへに出る楽器で

駅前大きな防空壕が爆撃で無残な姿になったこと、そして、防空壕に入り、爆撃を体験した恐怖、爆撃によって多くの人の死を目の当たりにした体験は、今も忘れられないそうです。「こんな怖い戦争は、一度とやっちはいけない」と、当時のことを思い出すように何度も言われた言葉が印象的です。

夜空にもくつきりと見えたB29の黒い巨体……濱野さんは、今は、青空が高くあがる大きな風、戦争のない平和な世の中を願う心を託しています。

参加した小学生は、「せんそうのことがよくわかりました」と感想を書いてくれました。

戦争体験者が高齢化するなか、次の世代に戦争体験を伝えるという企画は必要ではあるものの、若い世代の参加を促す呼びかけの難しさを感じました。

「家々練習していても、近所の人に騒がしいぞ、と怒鳴られたり」と西浜さんも苦笑します。中には「チャイナドレスを着たくて始めた」という人も。多くの会員が2~4年のキャリアを重ねてきた今、二胡特有の哀愁を帯びた音が視聴覚室に響きま

す。4か月の依田さんも真剣な表情で弓を弾きます。「私は馬頭琴もやりたいんです。いずれは娘の二胡と合わせたいんです」そう話すのは母娘で参加している新保さんです。

今からちょうど4年前、「中国女子十二楽坊」が賑わっていた頃、田無公民館の主催講座「胡弓を弾いてみよう」をきっかけにサークルができました。その後には田無公民館まつりや市民文



田無公民館まつり発表会での中国胡弓楽坊

会員募集中
大内 478・7503
※二胡は中国民族楽器で胡弓のひとつ、京胡・四胡等もある。